SUMA GAKUEN

2021年3月22日(月)

V1学年
オンライン授業報告

山田大貴

SUMA GAKUEN

目次

1.オンライン授業のメリット

2.オンライン授業のデメリット

3.これまでに行った効果的な工夫

4.反省点・改善点

5.今後の展望・有効活用に向けて

１.オンライン授業のメリット

１-①　**教員側**が感じたメリット（１）

・対面授業に比べて進度が早い

　　→演習時間を確保できる

・視聴覚教材を使用しやすい

　　→生徒の理解が深まる

・複数のクラスで授業が同時展開できる

　　→教材研究時間の確保

　　授業のクオリティの向上

1.オンライン授業のメリット

1-①　**教員側**が感じたメリット（2）

・登下校の時間をカットできる

　→感染リスクの軽減・生徒負担の軽減

・動画配信授業の可能性

　→アーカイブからいつでも視聴可能

　→生徒の復習に役立つ

1.オンライン授業のメリット

1-②　生徒側が感じたメリット（1）

- **登下校の時間をカットできる（大多数）**
  - →その時間で勉強ができる
  - →身体的負担が軽減される
- 視覚的にわかりやすく理解が深まる
  - →画面共有でプリントや画像を見ることができる
- 動画を後で見返すことができる
  - →復習に役に立つ

1.オンライン授業のメリット

1-②　**生徒側**が感じたメリット（2）

・自由な時間が増える

　→わからないことをいつでも調べられる

・家族との関係

　→母親の負担が軽減されていた（お弁当）

　→家族と話せてメンタルヘルスの維持

1.オンライン授業のメリット

1-③　メリットまとめ（1）

教員・生徒ともに、

- **登下校の時間削減**
- **視聴覚教材の使用**
- **動画授業のアーカイブ化**

に主なメリットを感じている。

1.オンライン授業のメリット

1-③　メリットまとめ（2）

教員側が感じた、

・進度の確保

に関しては、生徒側にはあまりメリットとして感じられていない

また、生徒側が感じた、

・自由な時間が増える

という点に関しては、教員側はあまりメリットとしては感じていない

2.オンライン授業のデメリット

2-①　**教員側**が感じたデメリット（1）

・定着度が低かった

　→授業が「動画を見る」だけの時間となった生徒が多かった

・授業中の不便さ

　→生徒の表情がわかりにくい

　理解度が確認しにくい

　リアクションがわかりにくい

　発問するとテンポが悪くなる

2.オンライン授業のデメリット

2-①　**教員側**が感じたデメリット（2）

・初期投資のハードルが高い

　→iPadの購入、Wi－Fi設備の構築に費用と時間がかかった

・生徒の（良い／悪い）変化に気づきにくい

　→教員の目が行き届かない

　→良くも悪くも「自由」

2.オンライン授業のデメリット

2-②　**生徒側**が感じたデメリット（1）

・音声が聞き取りにくい

・板書が見にくい

　→設備の面でのデメリットが多数

・先生に質問できない

・友人と会えないのが寂しい

　→関係の少なさを辛く感じる生徒も多い

2.オンライン授業のデメリット

2-②　**生徒側**が感じたデメリット（2）

・集中力が持続しない

　→家だと怠けてしまう

　　理解できていないところが多い

・プリントの印刷が大変

　→資料は事前にもらいたい

2.オンライン授業のデメリット

２-③　デメリットまとめ（１）

教員・生徒ともに、

・集中力の低下

・理解度の低さ

に主なデメリットを感じている。

2.オンライン授業のデメリット

2-③　デメリットまとめ（2）

生徒の多数感じた、

- **音声が聞きとりにくい**
- **板書が見にくい**

という点に関して、教員側がデメリットとしてとらえ、授業改善を行う必要があるのでは？

※それが2ー③（1）で述べたデメリットの要因の可能性も

3.これまでに行った効果的な工夫

SUMA GAKUEN

3 -①　**教員**の意見

・動画を積極的に活用した

　　・You tubeの動画を資料として活用

　　・英文構文解釈シリーズの動画制作

　　・事前に録画した動画を視聴し、時間短縮

・iPadとアップルペンシルを用いての授業

　　・画面共有で書き込んでいくスタイル

・ゲームや会話を積極的に取り入れる

　　→関係が希薄にならないように、楽しく

3.これまでに行った効果的な工夫

SUMA GAKUEN

3 -②　生徒の意見（１）

・山田先生の世界史動画配信（多数）

　→プリントに直接書き込んでいくスタイル

　　だからわかりやすい。後から見返せる。

・瀧本先生の画面共有での授業（多数）

　→カラフルな線引きで、大事なところが明

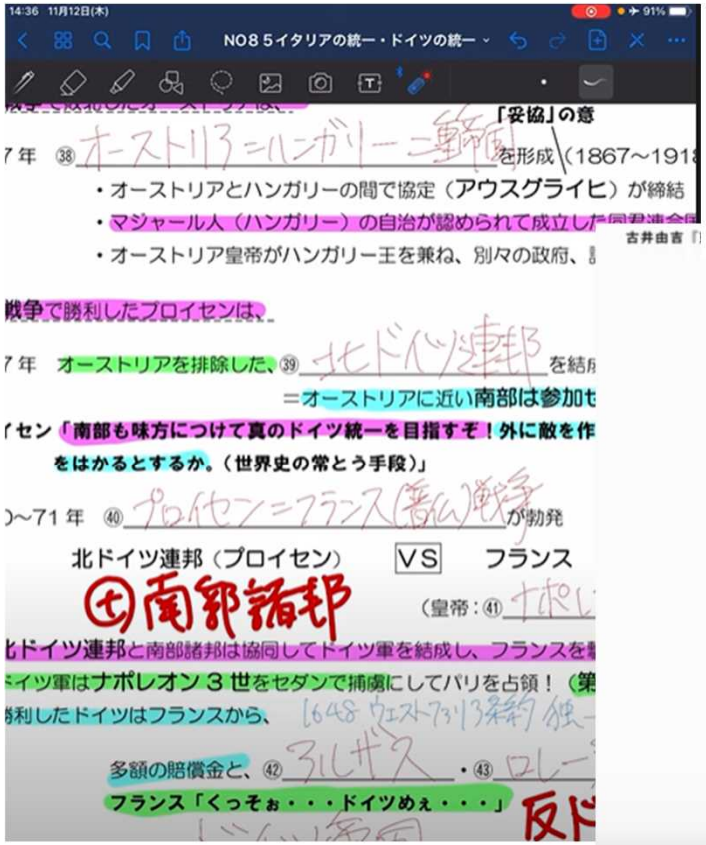
　　確でわかりやすい

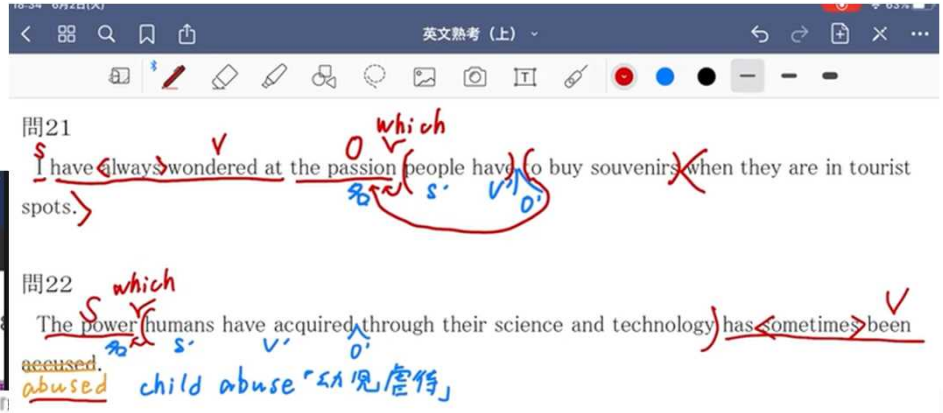
・岡本先生はマイクを使ってくれていたので、声が聞き取りやすく、スライドもわかりやすかった

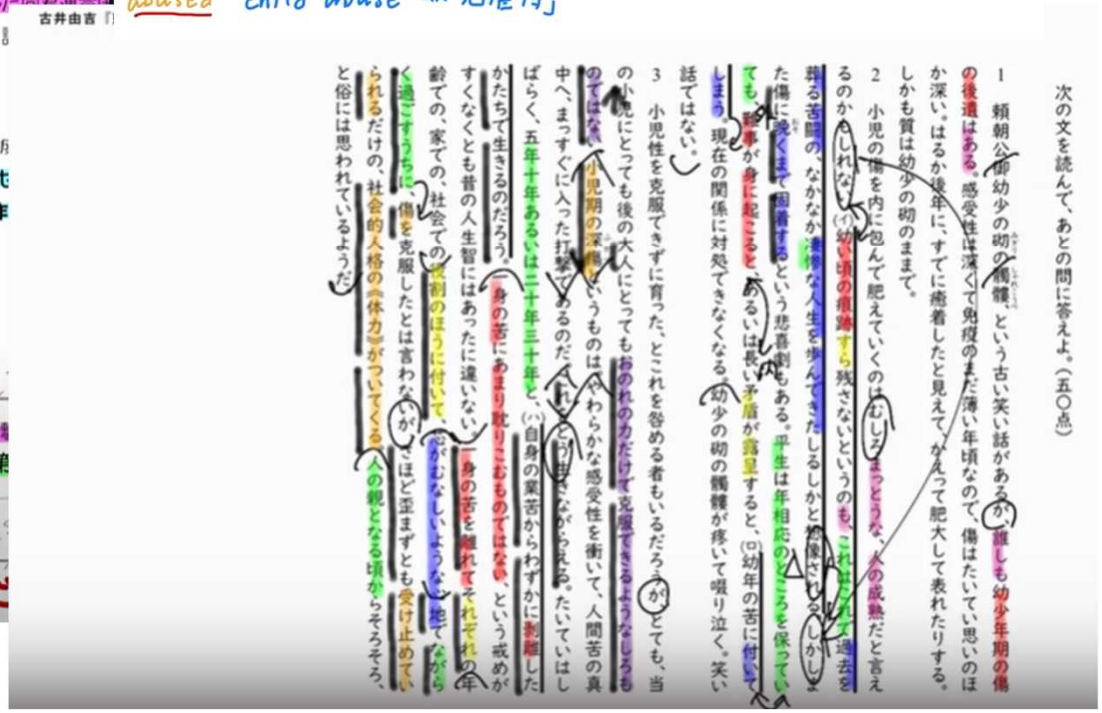
3.これまでに行った効果的な工夫

SUMA GAKUEN

画面共有や動画を用いた授業の例






次の文を読んで、あとの問に答えよ。（五〇点）

1　頼朝公御幼少の砌の髫髪、という古い笑い話がある。誰しも幼少年期の傷の後遺はある。感受性は深くて鬼瘦のまだ薄い年頃なので、傷はたいてい思いのほか深い。はるか後年に、すでに癒着したと見えて、なんって肥大して表れたりする。しかも質は幼少の砌のままで。

2　小児の傷を内に包んで肥えていくのは、むしろまっとうな、人の成熟だと言えるのかもしれない。(イ)幼い頃の痕跡すら残さないというのも、これは、ずいぶん過去を葬る苦闘の、なかなか凄惨な人生を歩んできたしるしかと想像される。しかしまた傷に気づくまで固着するという悲喜劇もある。平生は年相応のところを保っていても、物事が身に起こると、あるいは長い矛盾が露呈すると、(ロ)幼年の苦に付いてしまう。現在の関係に対処できなくなる。幼少の砌の髫髪が疼いて吸り泣く。笑い話ではない。

3　小児性を克服できずに育った、とこれを咎める者もいるだろう。が、とても、当の小児にとっても後の大人にとってもおのれの力だけで克服できるようなしろものではない。小児期の深傷というものは、やわらかな感受性を衝いて、人間苦の真中へ、まっすぐに入った打撃であるのだ。それとは、甚さながら見る。たいていはしばらく、五年十年あるいは二十年三十年と、(ハ)自身の業苦からわずかに剥離したかたちで生きるのだろう。一身の苦にあまり耽りこむものではなく、という戒めがすくなくとも昔の人生智にはあったに違いない。一身の苦を離れてそれぞれの年齢での、家での、社会での、役割のほうに付いて、ながむしないような態でながく過ごすうちに、傷を克服したとは言わないが、さほど正まずとも受け止めていられるだけの、社会的人格の、体力がついてくる。人の親となる頃からそろそろ、と俗には思われているようだ。

3.これまでに行った効果的な工夫

SUMA GAKUEN

3-②　生徒の意見（2）

・山崎先生の授業はやることが明確で余った時間はシャドウィングなど充てられた
・吉村先生の事前に動画を見てきて行う演習
・生徒を積極的に当ててくれる先生
・カメラの前に来て話してくれる先生
・事前にプリントを送ってくれる先生
・授業の間にも出席確認をはさむ先生
・カメラをONにさせる先生

3.これまでに行った効果的な工夫

SUMA GAKUEN

3-③　まとめ（デメリット克服のために）

・単なる板書の授業では、通常授業の下位互換となってしまいクオリティが下がる。

・**画面共有や事前の動画配信**などの工夫で、そのデメリットを補う必要がある。

・工夫のためにはなんらかの設備が必要（iPad？アップルペンシル？マイク？）

3.これまでに行った効果的な工夫

SUMA GAKUEN

3-③　まとめ（デメリット克服のために）

・自宅にいる生徒の**集中力を持続させる**ために

→積極的に発問する

→カメラの前に来て語りかける

→授業の途中で受講状況を確認する

→カメラをONにさせる

などの工夫も必要である。

4.改善点・反省点

- **授業準備時間**の確保
  - 授業のクオリティを確保するために
  - 完全オンライン＞週１オンライン

- **反転授業**の可能性
  - 自宅で動画視聴→学校で演習
  - 「みんなと一緒」じゃないとできないこと

5.今後の展望・有効活用に向けて

SUMA GAKUEN

- **アーカイブ**の作成
  - オンライン授業でなくなっても授業の動画は撮影できる（時間の確保が必要）
  - 見返すことができることの功罪

- 基本は対面授業、**緊急時オンライン**の体制
  - 受験指導は極力対面で行いたい
  - 土曜日も登校したいという生徒

5.今後の展望・有効活用に向けて

SUMA GAKUEN

・TeamsやFormsの機能の有効活用

　・ICTへの知識を教員が深める

・オンライン授業ならではの授業

　・単なるチョーク＆トークではクオリティダウン（受講環境・設備の点から）

　・動画配信、画面共有、反転授業の活用

　　→そのためには入念な準備が必要